

北海道東部におけるモコト式土器出土遺跡地名表

菅野友世

〒076 富良野市栄町18番地15号 農林水産省札幌食糧事務所富良野支所

凡 例

1. 遺跡名収録にあたって

原則として報告書等に記載された遺跡名を用い、資料が拓影・写真などで確認できるもの、または文書報告のみである資料についても管見の範囲で収録に努めた。

2. 地名表の記載順

遺跡・所在地・立地・調査区分・備考・文献

3. 所収文献

報告者名・刊行年・書名（文献）・発行所の順で記載したが、3名以上の執筆者の場合は○○○○他とし、編集責任者が明らかな場合は○○○○編とした。

4. モコト式土器の特徴

- ① 器形は底部からあまり屈曲がなく、口縁部にいたる比較的単純な器形
- ② 口縁部は平縁が多い、稀に山形突起をもつものもある。
- ③ 底部はやや張り出す平底と乳房状尖底があり、底部内面に縄文が施されている。
- ④ 文様の地文は、LRを主体にする横位施文の斜行縄文が口縁から底部まで施されている。
- ⑤ 口縁部近くに水平もしくは垂直につけられる隆起帯が特徴であるが、それより特徴的なのは、円形施文具による円形刺突文・突引文・沈線が施されているのが一般的で、中には縄の圧痕、指頭によるものもある。
- ⑥ 胎土は繊維を含むものがほとんどであるが、中には少量の繊維と砂粒を混じているものもある。（文献49）
以上のようにモコト式土器の特徴を要約することができる。

5. モコト式と柏木川式土器との関係

モコト式と柏木川式土器の特徴がほぼ共通

なことから、モコト式の位置付けを考える上で、柏木川式は重要な関係にある。（文献16）上野秀一氏によって設定された柏木川式との関連でモコト式が論及されている（文献8.16.24）

今回の地名表調査においては、道東部に分布するモコト式土器についてのみまとめられたものである。

6. モコト式土器の分布

分布は、網走・釧路・勝地方を始めとする道東部から道中部にも及んでいるようであるが、分布の中心は道東部にあったものと考えられる。（文献49）

今回とりまとめた地名表においても、そのことが明らかにされた。

7. 備考

報告書で発表された土器名を記載したが、空欄は全てモコト式である。

8. 考古学全般についてご教示を賜っている天野哲也先生、大沼忠春氏・杉浦重信氏・太田敏量氏からご教示・ご助言をいただきました。ここに記して感謝いたします。

(網走地方)

NO	遺跡名	所在地	立地	調査区分	備考	文献
1	大曲洞窟	網走市三眺	網走市河口から1.5km上流、海蝕による自然洞窟	調査	北筒I式土器	16.23
2	大曲2遺跡	網走市大曲	網走川左岸の丘陵、標高10~20m縁辺部に位置する	調査	モコト式土器比定	61
3	美岬2遺跡	網走市美岬	能取半島東側の台地周縁部	調査		60
4	モコト貝塚 浜藻琴神社遺跡	網走市藻琴	モコト湖を望む台地上に位置、標高20m 藻琴湖と濤沸湖に挟まれオホーツク海に臨む台地上	表採調査		50.59
5	ナヨロの沢遺跡	網走市藻琴	藻琴湖と濤沸湖に挟まれた縁辺部に位置し、標高25m前後	調査		59
6	嘉多山遺跡	網走市嘉多山	網走湖西岸、標高約24~26m前後の湖岸台地上にある	調査	モコト式に類する土器	58
7	トコロチャシ遺跡	常呂町常呂	常呂川河口右岸、標高20m前後	調査		22.23
8	トコロシャン南尾根遺跡	常呂町弁天	常呂川右岸の能取湖水面と常呂川水面の分水嶺の高位段丘面の西尾根末端に位置し、標高25m前後	調査	モコト式類似 モコト式に比定できる	4.10.23
9	トコロTK17	常呂町弁天	常呂川に注ぐ小沢の右岸、台地端標高20m	一般調査		10.23.49
10	岐阜第二遺跡	常呂町岐阜	岐阜台地の北縁に立地する	調査	モコト式の範疇	51
11	住吉C遺跡	女満別町住吉	網走湖の南西、湖岸から1.2km、標高凡そ3mの低地に位置する	調査		62
12	元町2遺跡	美幌町元町	網走川東岸、河岸段丘上の標高20m程度の低位置にある	調査	モコト式に属するのであろう	20
13	元町3遺跡	美幌町元町	網走川東岸、標高28mの段丘上に位置している	調査	モコト式に比定される土器	21
14	ピラオマッコウマナイ遺跡	美幌町稲美	美幌川支流である古駒生川の河岸段丘先端部に所在する	調査	モコト式に属する土器群	14.19
15	豊岡4遺跡	美幌町豊岡	海拔100m前後、舌状に張り出した緩斜面上に立地	調査	モコト式に比定される	1
16	みどり1遺跡	美幌町美禽	網走川西岸河岸段丘上、標高40~50m	調査	モコト式土器であろう	2
17	みどり4遺跡	美幌町美禽	標高15~20mの台地状、緩傾斜面上に立地	調査	モコト式に比定できる	3
18	開成1遺跡	北見市開成	常呂川南岸の支流、サラキチシュナイ川の流域の左岸丘陵の頂部に位置し、標高113.5m	表採		56
19	川東1遺跡	北見市川東	常呂川と無加川との合流点から300m上流の右岸に位置	調査		54
20	オクシベツ川遺跡	斜里町朱円	海別川河川敷地	調査	類モコト式	11.13
21	ウナベツ川遺跡	斜里町朱円	ウナベツ川に面する標高3~7mの低位部に位置する	調査		42.43

(釧路地方)

NO	遺跡名	所在地	立地	調査区分	備考	文献
22	屈斜路コタン遺跡	弟子屈町屈斜路	屈斜路湖南岸、標高120m前後、湖岸段丘	調査	第Ⅱ群土器	23.34
23	矢沢遺跡	弟子屈町	釧路川右岸の低位な河岸段丘	調査		23.35
24	星川遺跡	弟子屈町サンベコタン	釧路河右岸段丘上、標高約75m	調査		23.44
25	オンネサルンベツ遺跡	阿寒町阿寒湖畔	オンネサルンベツ川左岸の湖岸段丘に立地、標高430m	調査		23.31
26	金子遺跡	標茶町塘路	シラルトロ沼東岸の段丘上、標高13~15m	調査		9.10.23
27	茅沼遺跡第4地点	標茶町コッタロ原野	シラルトロ沼北岸の段丘上、標高14~23m	確認調査		23.40
28	茅沼遺跡第6地点	標茶町コッタロ原野	シラルトロ沼に面した湖岸段丘上、標高21~22m	調査		11.41
29	太田12号遺跡	厚岸町太田	根室段丘に連なる海岸段丘の末端部に位置、標高60~70m	調査		23.46
30	貝塚町1丁目遺跡	釧路市貝塚町	釧路川左岸の釧路段丘上で、標高は20m前後	調査		23.33.45
31	東釧路遺跡	釧路市貝塚町	釧路段丘の一端に位置し、高度は40m内外海成段丘	調査		30.32
32	北斗遺跡第1地点 北斗遺跡V	釧路市北斗 釧路市北斗	釧路湿原西縁の釧路段丘面、海拔高度15~24m	調査	モコト式相当・比定	12.47 48.55
33	トウンベ遺跡	音別町尺別	尺別川右岸丘陵の緩傾斜面上に立地、標高40~60m	調査		23.39
34	奥高安遺跡	白糠町和天別	和天別川の支流シャチホロ川左岸、標高50m	調査	モコト式に比定される	23.36

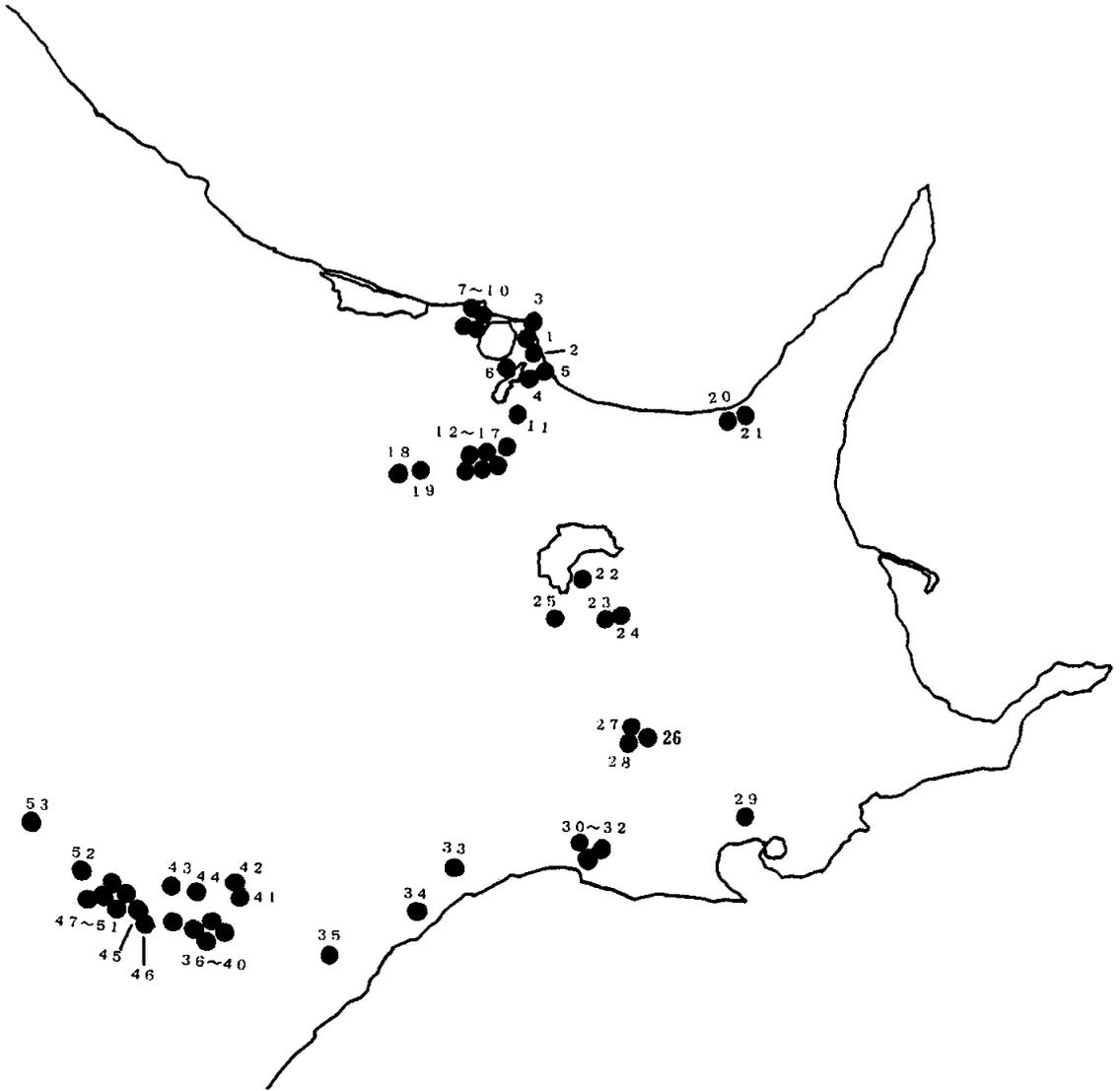
(十勝地方)

NO	遺跡名	所在地	立地	調査区分	備考	文献
35	平和遺跡	浦幌町平和	下頃辺川左岸の段丘上で標高25m	調査		18.23
36	猿別C遺跡	幕別町猿別	猿別川西岸の河岸段丘上、標高およそ100m	調査		5.23
37	幕別P地点	幕別町	猿別川と茂発谷川の合流する舌状の台地上、標高約40m	表採	モコト式土器に対比	24.25
38	幕別NO.49遺跡	幕別町千住	旧途別川の段丘上、標高約80m	表採		17
39	札内I遺跡	幕別町依田	十勝川中流域に位置し、幕別台地の北端、途別川に面した河岸段丘上に立地する。標高は85m	調査		6
40	稲志別地点	幕別町稲志別	旧途別川右岸の段丘上、標高約80m	表採		24.25
41	青山A遺跡	池田町青山	利別川右岸の発達する丘陵、標高40m	調査	北筒Ⅲ式土器	23.26.57
42	十日川5遺跡	池田町信取	利別川に注ぎ込む十日川南岸の河岸段丘上で、標高約32~36m	調査		53

NO	遺跡名	所在地	立地	調査区分	備考	文献
43	西昭和2遺跡	音更町東和	音更川と土幌川とに挟まれた緩く南に傾斜する平坦地 標高70~74	調査		53
44	十勝川温泉1遺跡	音更町十勝川温泉	十勝川左岸段丘上 標高27.9m	調査	モコト式・類モコト式	27
45	宮本遺跡	帯広市内	上帯広台地の中央部に相当し、帯広川と売買川の間に広がる扇状地面に位置 標高は約65~78m	調査		26
46	三の沢1遺跡	帯広市内				26
47	小林遺跡	芽室町基線5-2	十勝川と美生川が合流する北東に突き出した河岸段丘上に立地する 標高75m	調査表採		23.26.38
48	小林遺跡C地点	芽室町東9南10	標高74m前後の河岸段丘上に立地する	調査		28
49	西13遺跡(北伏古遺跡)	芽室町北伏古	帯広川右岸に発達している河岸段丘の低位段丘 標高85m程度	分布調査		23.26
50	北明1遺跡	芽室町北明	十勝地方で一番古い段丘面(光地園面)上に立地し、標高137~139m	調査		53
51	北明3遺跡	芽室町北明	十勝川と然別川に挟まれた美蔓台地のほぼ南端に位置し、然別川の小流・北明川先端西沢頭の右岸斜面	調査		29
52	東松沢2遺跡	清水町熊牛	十勝川と佐幌川の合流点から2kmほど東方の河岸段丘縁辺部に位置、標高110m	調査	モコト式に近いもの	52
53	屈足B遺跡	新得町屈足	上佐幌台地の扇状地の扇頭部に位置、標高80m	調査	類モコト式	7

文 献

- 1 荒生健志・高山ゆかり 1689：豊岡4遺跡 美幌町教育委員会
- 2 ———・北嶋ゆかり 1991：みどり1遺跡 美幌町教育委員会
- 3 ———1991：みどり4遺跡 美幌町教育委員会
- 4 飯島武次・小川静夫・鷹野光行 1976：トコロチャシ南尾根遺跡 常呂町
- 5 石橋次雄・佐藤訓敏編 1983：猿別C遺跡の考古学的調査 幕別町教育委員会
- 6 ———他 1985：札内I遺跡 幕別町教育委員会
- 7 ———他 1989：屈足B遺跡 新得町教育委員会
- 8 上野秀一 1978：石狩海岸砂丘地帯の遺跡群について 北海道考古学14
- 9 宇田川 洋・豊原熙司他 1976：釧路川中流域の縄文早期—金子遺跡 標茶町教育委員会
- 10 ———1977：北海道考古学1
- 11 ———1988：アイヌ文化成立史
- 12 右代啓視 1994：北海道 日本考古学年報45
- 13 金盛典夫 他 1980：オクシベツ川遺跡 斜里町教育委員会
- 14 木村尚俊 1986：北海道 日本考古学年報37
- 15 熊谷仁志 1993：成果と問題点 北明1遺跡(2)・西昭和2遺跡・十日川5遺跡 北海道埋蔵文化財センター
- 16 児玉作左衛門・大場利夫 1955：網走市大曲洞窟出土の遺物について 北方文化研究報告10
- 17 後藤秀彦 1975：十勝埋蔵文化財報告I—幕別町—幕別町教育委員会
- 18 ———1979：モコト式土器の新資料 浦幌町郷土博物館報告13
- 19 小林 敬 1985：ピラオマッコウナイチャシ遺跡 美幌町教育委員会
- 20 ———・荒生健志 1986：元町遺跡 美幌町教育委員会
- 21 ———1988：元町3遺跡 美幌町教育委員会
- 22 駒井和愛編 1964：オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡(下) 東京大学文学部
- 23 佐藤訓敏 1983：猿別C遺跡の土器に関する若干の考察 猿別C遺跡の考古学的調査 幕別町教育委員会
- 24 ———1985：佐々木 茂(考古)コレクション2—更別町・幕別町の遺物 帯広百年記念館紀要3
- 25 ———1986：十勝川考古学動向 1984・85 然別川流域3
- 26 ———他 1986：帯広・宮本遺跡 帯広市教育委員会
- 27 佐藤忠雄 1988：十勝川温泉1遺跡 音更町教育委員会
- 28 ———編 1993：小林遺跡C地点 芽室町教育委員会
- 29 ———編 1994：北明3遺跡 芽室町教育委員会
- 30 沢 四郎他 1962：東釧路 釧路市教育委員会
- 31 ———1965：北海道阿寒町阿寒湖畔オンネサルンベツ遺跡 阿寒町教育委員会
- 32 ———1971：東釧路遺跡第1地点(東釧路貝塚)の発掘 釧路市教育委員会
- 33 ———・西 幸隆 1974：釧路市貝塚1丁目遺跡調査報告—第4次調査—釧路市立郷土博物館
- 34 ———編 1978：弟子屈町屈斜路コタン遺跡調査報告 書弟子屈町教育委員会
- 35 ———編 1978：弟子屈町矢沢遺跡調査報告書(第2次調査) 弟子屈町教育委員会
- 36 ———他 1981：北海道白糠町奥高安遺跡について 釧路市立郷土博物館紀要8
- 37 ———1987：釧路の先史 釧路叢書24
- 38 篠 孝一 1968：芽室町小林遺跡調査報告 芽室町教育委員会
- 39 富永慶一 1967：白糠郡音別町トウンベ遺跡出土の遺物 北海道考古学3
- 40 豊原熙司 1981：中期の土器—北海道東部の土器 縄文文化4
- 41 ———1982：標茶町茅沼第6地点調査報告略報 標茶町郷土館
- 42 ———1983：北筒上層・北筒・余市・モコト系土器出土遺跡考古・遺物地名表
- 43 中田幹男他 1977：ウナベツ川遺跡 斜里町教育委員会
- 44 永田 均他 1977：弟子屈町矢沢遺跡第1次調査 弟子屈町教育委員会
- 45 永峯光一編 1981：縄文土器大成2 中期 講談社
- 46 西 幸隆 1976：厚岸町太田12号遺跡 厚岸町教育委員会
- 47 ———1993：釧路市北斗遺跡第1地点調査報告書 釧路市埋蔵文化財調査センター
- 48 ———・三浦佳代 1994：釧路市北斗遺跡第1地点調査報告書II 釧路市埋蔵文化財調査センター
- 49 藤本 強 1972：常呂川流域を中心とした一般調査と竪穴群の測量 常呂
- 50 ———1980：モコト貝塚表面採集の土器 ライトコロ川遺跡 東京大学文学部
- 51 ———・宇田川 洋編 1982：岐阜第二遺跡 常呂町
- 52 北海道埋蔵文化財センター 1992：上清水2遺跡・共栄3(2)・東松沢2遺跡・北明1遺跡(2)
- 53 ———1993：北明1遺跡(2)・西昭和2遺跡・十日川5遺跡
- 54 北網圏北見文化センター編 1989：川東1遺跡 北見教育委員会
- 55 松田 猛・三浦佳代 1995：釧路市北斗遺跡V 釧路市教育委員会
- 56 宮 宏明 1983：開成1遺跡出土のモコト式土器について 北見郷土博物館紀要13
- 57 山崎 徹 1972：池田町の先史文化—埋蔵文化財報告I 池田町教育委員会
- 58 和田英昭・米村 衛 1986：嘉多山遺跡 網走市教育委員会
- 59 ———1988：ナヨロの沢遺跡・浜藻琴神社遺跡 網走市教育委員会
- 60 ———1991：美岬2遺跡 網走市教育委員会
- 61 ———1991：大曲2遺跡 網走市教育委員会
- 62 米村哲英 1992：豊里石刃遺跡・住吉C遺跡 女満別町教育委員会



北海道東部のモコト式土器出土遺跡分布図